

## 最優秀賞

神奈川県共同募金会長賞

### 福祉と障害と多様性

葉山町立南郷中学校

一年 小宮 一葉

「一葉はもしかしたら障害があるかもしれないね。」

ある日、母にそう言われた。どうやら私の父はアスペルガー症候群という発達障害らしい。発達障害（アスペルガー・ADHD等）の遺伝率は八〇パーセント近くあるそうだ。私は発達障害というものを、もっと詳しく知ってみたいと思いつつ自分に調べることにした。

まず、発達障害とは生まれつきの脳の特性であり「病気」とは異なるものだということが分かった。脳の発達が通常と違っているために、特定のことには爆発的な能力を発揮する一方で、ある分野は極端に苦手といったことが生じやすいそうだ。そして発達障害は見た目だけではわかりにくい。

私が自分でいろいろと調べてみて知ったことは想像以上に自分に当てはまるが多かったことと、もう一つは虐待やいじめにあう方が多いということだ。まず、自分自身当てはまることが多いというのは、私がおのごとに集中するのが苦手だからだ。とくに人の話を聞くのが苦手で注意されたことを忘れてしまふし、何度怒られても同じことをくり返してしまつたりする。忘れ物も明らかに周りの人より多い。今度こそ集中しようと思つても気が付くと全く違うことをしていたこともあった。だが絵を描く時や小説を読む時は周りが見えなくなるほど集中できることもある。このことから私が考えているよりずっと、障害に悩んでいる人が身近にいてのではないかと思つた。もう一つの虐待やいじめにあう方が多いというのは、さらに深掘りするためインターネットの掲示板サイトを使い様々な人の意見を見てみた。そこで、とある書き込みを見つけた。内容は「障害者枠の職場でいじめられている。」というもので会社で周りの人と同等に扱ってもらえず避けられていることを悩んでいる、というものだった。それに対しての書き込みは思つていたより冷たいものが多く「障害者枠で採用されている時点で仕方がない。」や「健常者と同等に仕事ができるなら一般採用で良いのになんで障害者枠にしたの？」という書き込みもあった。とくに印象的だったのは「自分を特別扱いしてほしだけ。」というものだ。こういう考えをする人もいるんだなと、知ることができた。あらためて、「身体・知的・精神」と様々な障害があり多様性を受け入れる世になる中偏見や差別的考えをする人はまだまだ多いものだなと感じた。だが障害者「だから」仕方がない、障害者「だから」優しくする、といった考え方もまた差別だと私は思う。障害は特性であり

個性であり才能なのだ。私は強く感じている。一つだけの考え方や一人だけの人が絶対に正しいなんてことは無い。私は思う。だからこそ、個々を尊重し合い認め合えるような社会になっただけだ。と思うと共に私も人を想いやつていきたい。

